

## 細胞診検査 ～呼吸器細胞診を中心に～

国立病院機構沖縄病院 研究検査科  
細胞検査士 渡口 貴美子

## 細胞診検査とは

体内の組織から剥離して、分泌物などに浮遊している細胞を顕微鏡で検査する診断法で、癌診断法の一つとして確立しています。喀痰に出てくる肺の細胞、尿に出てくる膀胱の細胞などを調べて、異常な細胞（癌細胞）有無や炎症などを推測します。



## 肺癌の主な種類

癌の種類	占める割合	発生の部位	特徴
肺癌	約80%	肺野（末梢）	症状が出にくい
扁平上皮癌	約20%	肺門部	喫煙との関連が大きい 咳や血痰などの症状が異れやすい
大細胞癌	約5%	肺野（末梢）	増殖が速い
小細胞癌	約15%	肺門部	喫煙との関連が大きい 増殖が速い

## 肺癌の主な症状

咳、痰、血痰、呼吸困難、息切れ、息苦しさ、体重減少、胸の痛み など

## 肺癌の主な検査法

検診：レントゲン、喀痰細胞診、腫瘍マーカー  
鑑別：CT  
確定：気管支鏡検査、肺生検

## 細胞診検査の対象となるもの・・・

喀痰、CTで採取された細胞、気管支鏡検査や生検で採取された細胞

## 肺癌の細胞診検査

喀痰：主に肺門（肺の入り口）にできる癌を発見する目的で行われる。一般的には三日間痰を採取して、その中に癌細胞が含まれているかを調べる。

気管支探過、気管支洗浄液：気管支鏡検査で採取した検体。直接肺癌が疑われる部位をブラシでこすったり、洗浄して回収した細胞を観察する。

生検検体：直接肺癌が疑われる部位の組織を採取して、その細胞を観察する。

## 喀痰細胞診の検査法（蓄痰法）

- 3日間、起床時の早朝痰を採取する。
- 採痰するときは、必ずうがいをして口の中をきれいにする。
- 痰を出すときは、強い咳（せき）をしながら深部のほうから、固定液の入った採痰専用の容器の中に直接、出すようにする。
- とれた痰は、ふたをして固定液と混じるように、強く振ってよく混ぜる。

## 肺癌検診の対象者

- 40歳以上
- 喫煙細胞診対象者は50歳以上で喫煙指数が600以上の人  
※喫煙指数：一日に吸うたばこの平均本数×喫煙年数

## 最後に

肺癌は早期ではほぼ無症状であり、症状があってもそれは肺癌に特有な症状ではありません。また進行の程度に関わらず症状がほとんど見られない場合もあり、検診などで発見されることもあります。

検診で行う喫煙細胞診は自分で痰をとって検査することができます。自己採取のため検査に痛みを伴いません。喫煙細胞診で発見されやすい肺の入り口付近に発生する扁平上皮癌は喫煙との関連が非常に大きいといわれています。

肺がんは症状が現れてから治療をしても予後が悪いことが多いため、喫煙者をはじめ、気になる人は定期的に、人間ドックのオプションなどを利用して、肺がん検診を受けることをおすすめします。